

血尿

尿に血液が混じることです。

尿の色が濃い、真っ赤な尿、オレンジ色、ワイン色、黒っぽい色、茶色、緑色など 目に見える肉眼的血尿と目で見てわからない顕微鏡的血尿があります。

見た目では、尿はいろいろな色になります。

水分を多く取ると尿は薄くなり、水のようにほとんど無色になります。逆に水分をあまり取らなかったり、汗をかいたり、脱水の時、朝一番の尿などは色が濃くなります。

血液の出所は、**腎臓**と**尿路（尿管、膀胱、尿道）**に分けられます。小児では尿路系の悪性腫瘍（癌）は非常に希です。

腎臓が原因となる疾患は、腎炎によることが多いです。**溶連菌**感染症で有名な**急性糸球体腎炎**、他 **IgA 腎症**や**紫斑病性腎炎**、**ループス腎炎**などがあります。

尿路系の代表は、（出血性）膀胱炎です。アデノウイルスが原因となることが多いです。これに対し、大腸菌や腸球菌が原因となる膀胱炎は一般的に見られますが、出血性膀胱炎に比べ尿の色は、肉眼的血尿までは行きません。

何も症状が無くて検診で尿潜血陽性（顕微鏡的血尿）の場合、**慢性糸球体腎炎**の可能性があります。その中で、**IgA 腎症**が最も多い疾患です。

尿の色が気になるときは、本当に血尿なのかを確認し病気が隠れていないかを確認めるために病院を受診しましょう。